

3. 重要魚種漁場形成調査

志村 健

目的

本県境港地区の重要資源である浮魚類（イワシ類、スルメイカ等）の資源生態的特徴及び漁場形成状況を調査し、これら浮魚類の資源評価及び動向予測を迅速に行える技術を開発すること等を目的とする。

方法

1) スルメイカ漁場調査

ここでは資源評価調査で実施したスルメイカ漁場一斉調査も合わせて報告する。

スルメイカの北上期（5月）に隠岐諸島周辺及び沖合海域において分布・移動等を把握するために、自動いか釣り機による釣獲試験及び標識放流を実施した。

2) カタクチイワシ等分布調査

9月と11月に島根半島から隠岐諸島周辺海域においてトロール網を用いて分布を調べた。

結果

1) スルメイカ漁場調査

5月上旬の北上期調査では全2定点で行った（表1）。釣り機1台1時間あたりの漁獲量（CPUE）は西側の調査点で11.1、東側の調査点で65.8となり、東側に多く分布していた。外套背長はどちらの調査点でも14-22の範囲にあった。

スルメイカの移動生態を把握するため合計2,164尾の標識放流を実施したところ、7尾の再捕報告があった（表2）。

2) カタクチイワシ等分布調査

図1の調査点において着底トロール網による試験操業を行ったところ、マアジ当歳魚、ケンサキイカ、カタクチイワシ成魚が採集された。

表1 スルメイカ釣獲試験結果の概要

調査名	実施期日	定点番号	位置	釣獲尾数	C P U E	外套長範囲	モード
北上期漁場調査(5月)	5/8	A	N36.32 E132.57	432	11.1	14-22	17
	5/9	B	N36.20 E134.19	2,699	65.8	14-22	17
			平均	1,939	45.5		

表2 2006年スルメイカ標識放流実施・再捕結果

放流月日	緯度	放流位置 経度	海域区分	放流尾数	再捕尾数	再捕月日	再捕位置 緯度 経度	
5/8	36.32	132.57	沿岸	292	0			
5/9	36.20	134.19	沿岸	1,872	7	6/2	37.13	136.18
						6/5	37.42	136.19
						6/5	35.43	134.46
						6/12	35.45	135.20
						6/18	37.24	136.23
						6/18	37.30	136.18
					6/22	37.29	137.22	

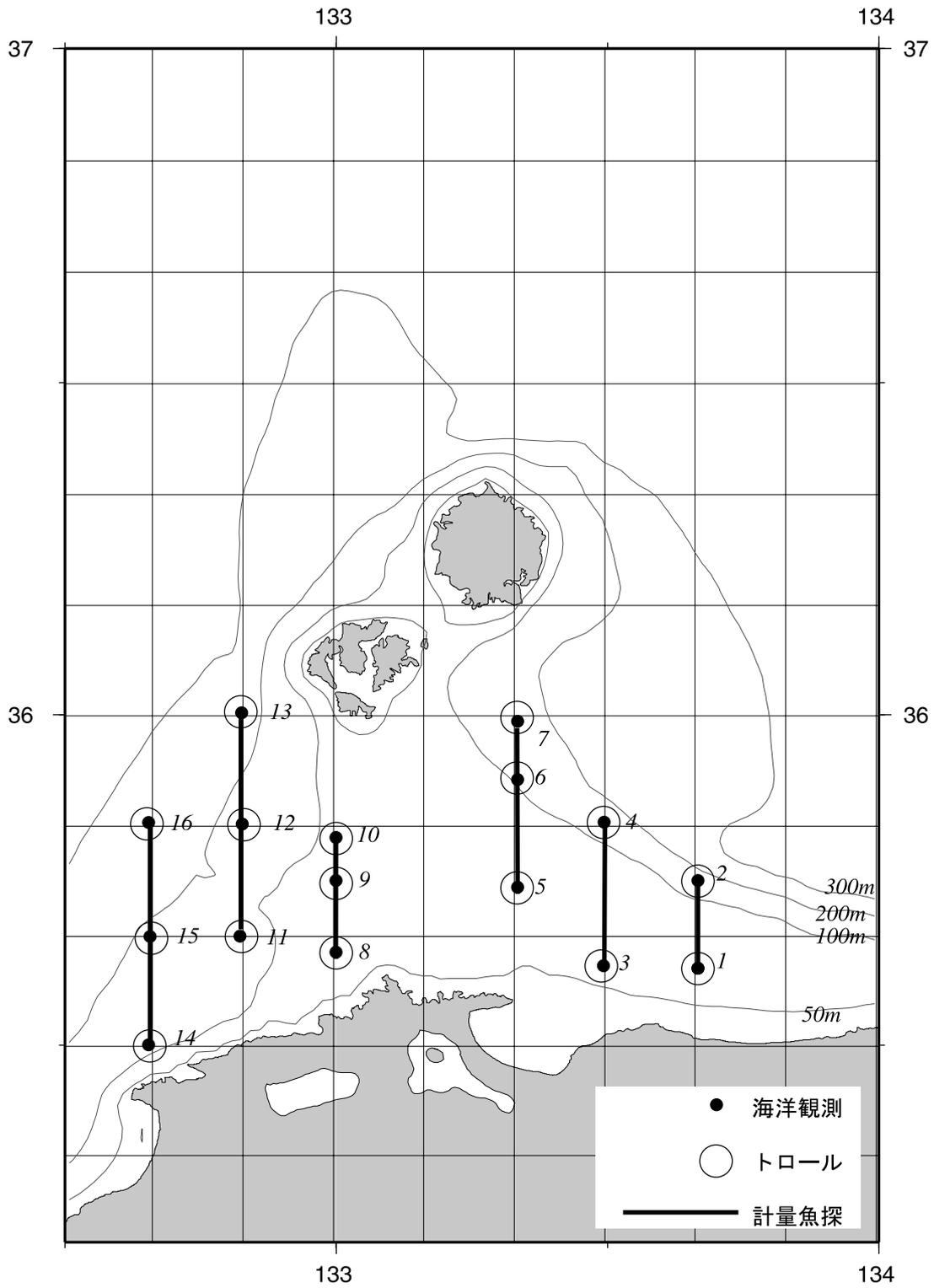


図1 カタクチイワシ等分布調査定点